

身延山久遠寺藏本朝文粹訓点データ夕集稿 (二)

王暄 高田哲治 陳翰柯 戴玉潔 孫瑾 陳博林 孟津卉 張璐 王帥予

卷第二

- 上は先―帝臂(返)を把ル〔之〕託(二)を思(二)ヒ・下(シモ)少―子頸(返)を抱ク〔之〕情(二)を知(二)レ。(身延文粹・上二一・5)
- (・かみ・とる・タク・おもふ・しも・くび・いだく・しる・)
- 凡ソ―厥ノ攝―行・一に前の詔(二)(の)如(二)セヨ。(身延文粹・上二一・6)(・おほよそ・その・いつに・ごとくにす・)
- 縦(ひ)方―赤を〔於〕公か口(二)に瀝ツトモ・何ソ雌(二)黄を〔於〕朕か脣(二)に下(二)サン。(身延文粹・上二一・7)(・したつ・とも・なにぞ・シワウ・くちびる・くだす・む・)
- 之を悉(コトクケン)スラク〔イ、悉ス〕耳ミ(身延文粹・上二一・8)(・ことごとくんす・らく・シツ・す・のみ・)
- 同公關白(を)辭スル表(二)(に)答(二)スル勅―答(身延文粹・上二一・10)(・す・す・)
- 勅す表(返)を得て忽(タ)に遜(去)―讓(上濁)(の)〔之〕懷(二)
- を見(二)ツ。(身延文粹・上二一・11)(・たちまちに・ソンジヤウ・をもひ・みる・つ・)
- 公・臣(平)―弼(入)(の)功積リ・化―導(の)慮(おんほむり)―高シ。(身延文粹・上二一・11)(・つもる・おもんばかり・たかし・)を増ス(身延文粹・上二一・12)(・なり・ひかり・ます・)
- 前―朝(の)〔之〕聖―明ナル・公(返)を待(ち)て耀(返)を今朕か〔之〕愚―昧ナル・誰を頼ンテカ矐(返)を披カシ。(身延文粹・上二一・12)(・グマイ・なり・たのむ・て・か・モウ・ひらく・む・)
- 而を期(返)に先(ち)而老(訓)を告ケ・病(返)に託ケ以情(返)を陳フ。(身延文粹・上二一・13)(・ゴ・さいだつ・つぐ・つく・のぶ・)
- 藥―石(の)〔之〕至―言(二)を憶(二)フ每(三)に・唯(た)霧

(去濁) 露(の)「之」永ク散(二)センコトヲ望(二)む。(身延文粹・上二一―13) (・をもふ・ながし・す・む・こと・を・)

○何ソ謙を「於」四海(の)「之」朝―務(二)返(二)に流(二)シテ跡ヲ「於」五―湖(の)「之」春の―煙(二)に浪(二)センと欲(三)ル「乎」。(身延文粹・上二一―14) (・なにぞ・ケン・テウム・ながす・あと・を・ゴゴ・みだりがはしくす・む・す・)

○彼の賢―息(入)數(上)―人共に將(去)―相(去)爲(二)ルに至(二)テ・或は德(返)に因(り)て進(二)ミ・或は功(返)を以て登(二)ラ不(二)トイフコト靡(三)シ。(身延文粹・上二一―1) (・ケンソク・たり・て・すすむ・のぼる・ず・と・いふ・こと・なし・) (「至」、二二点は「三」点の誤写か。)

○公か三―四(の)「之」子(訓)と謂(二)ふこと勿(三)かレ・斯(れ)乃(ち)朕か「之」二―八(の)「之」臣「也」(身延文粹・上二二―3) (・なし・すなはち・)

○天既に其(の)爵(二)を與(三)フ・世皆(な)其(の)賢(二)を欽(二)ム。(身延文粹・上二二―3) (・あたふ・つつしむ・) ○亦(た)何ヲカ―言フ「哉」・何(をか)言(ふ)「哉」(身延文

粹・上二二―4) (・なに・を・か・いふ・)

○詞―藻(上)を飭ルと雖(も)・豈(に)心―根を動(二)サンヤ。(身延文粹・上二二―4) (・かざる・うごかす・む・や・)

○縦ヒ性を花―月(二)返(二)に養(二)テ且(二)に林―菌(の)「之」間(二)に遊(二)フトモ・猶(ほ)契(二)を風―雲(二)返(二)に思(二) (二)て槐(平)―棘(入) (の)「之」上(二)を離(二)レ不(三)。(身延文粹・上二二―5) (・たとひ・やしなふ・まさに・あそぶ・とも・ちぎり・ほとり・はなる・)

○能ク此の意に體(音)シ(て)後章を煩(二)スルこと莫(か)レ(身延文粹・上二二―6) (・よく・す・いたつかはしくす・なし・)

○同公の致―仕(平濁)の表(二)に答(二)スル勅(身延文粹・二二―9) (・チジ・す・)

○勅す表(返)を省(二)ミテ高―旨を具(二)シツ。(身延文粹・二二―10) (・かへりみる・つぶさにす・つ・)

○朕前(サキ)に・公―且(ク)を指(し)而(去)類(去)暮(去濁)を懷(二)ヒ司―馬(ヒ)を引(二)テ懸―車(ヲサ)を抑(フ)。(身延文粹・二二―10) (・さき・コウタン・タイ

ボ・をもふ・ひく・をさふ・(「暮」、下に「一本」)。

○公今・還て謝―徳(の)「之」色(一)返(返)を凝(コラ)シテ彌(よ)

執―謙(の)「之」光(ひかり)を照(テラ)ス。(身延文粹・一二・11)

(・こらす・ひかり・てらす)

○又(た)猶(ほ)彼(返)を以て希(平)―有(上)の「之」

睽(アト)爲(ス)ル歟。(身延文粹・一二・12) (・あと・と・す)

○昔・呂―望(人名)か鬢の邊(の)「之」雪・世未(た)其(の)

煙―溪(平)に歸(ニ)ルコトヲ傳(三)返(返)へ「未」(再讀)。(身延

文粹・一二・13) (・かへる・こと・を・つたふ)

○姫(平)―爽(セキ)か面の―上(の)「之」波・人豈(に)「之」粉

―澤(二)に踰(コ)エタリと謂(イ)ハンヤ。(身延文粹・一二・13)

(・キセキ・こゆ・たり・いふ・む・や)

○況(や)・待(返)所は「者」臥―治・誰か夜―行を責(セ)メン。

(身延文粹・一二・14) (・せむ・む)

○將(イ)に「於」居―閑(二)に任(ニ)返(返)センと「將」(再讀)レハ・

恐(おそ)は「於」朝―務に迷ハンコトヲ。(身延文粹・一三・1) (・ま

さに・まかす・む・す・ば・おそらくは・まよふ・む・こと・を)

○縦(ひ)枯(返)レタルを燔(タ)イ「イ、燔イ」以生(音)を養(二)

フこと有(三)リトモ・榮(平)を逃(ノカ)レ以老(返)を終(ヲ)ヘンコ

トヲ許(ユル)サ不(シ)。(身延文粹・上二三・2) (・かる・たり・た

く・やく・やしなふ・あり・とも・のがる・をふ・む・こと・を

ゆるす・じ)

○宜(く)國(返)を憂(ふ)ル「之」常(の)―情(二)返(返)を思

(二)て永ク家(返)を傳(ふ)ル「之」苦(上)―請(平)上

を停(ヤ)ム「宜」(再讀)下(下)。(身延文粹・上二三・3) (・う

れふ・ながく・つたふ・やむ)

○勉(ツト)メテ醫―藥(返)を加へて重(ね)て陳スルこと莫(か)レ「焉」

(身延文粹・上二三・4) (・つとむ・くはふ・す・なし)

○枇―杷の左大臣の職(返)を辭スル表(二)に答(二)スル勅(身延

文粹・上二三・6) (・す・す)

○勅(重)重(て)表(返)を得て之(返)を具(ツツ)シツ。(身延文粹・

上二三・7) (・つぶさにす・つ)

○夫(れ)・事(返)を立テ官(返)を立(つ)ル卿家(の)「之」

舊―語ナリ。(身延文粹・上二三・7) (・たつ・たつ・ケイカ・な

り・)

○功(返)を世(返)シ德(返)を世(返)にスル・何(返)の一人(返)の「之」遺(返)躑(返)ソ。(身延文粹・上一三・七) (・よ・に・す・す・いづれ・ぞ・)

○去(返)病(返) (人名) は則(返) (ち) 是(返) (れ) 霍(返) (入) 將軍博(返) 陸(返) か「之」兄(返) (訓) ナリ・玄(返) 成(返) (人名) は寧(返) (ろ) 韋(返) 丞(返) 相(返) (人名) 第二(返) (の) 「之」子(返) (二) に非(返) (三) スヤ。(身延文粹・上一三・八) (・なり・あらず・や・)

○縦(返) (ひ) 侯王種(返) (二) 無(返) (二) (し) と云(返) フトモ・巳(返) に公(返) 卿門(返) (平) (二) 有(返) (二) ルコトヲ知(返) (三) (り) ヌ。(身延文粹・上一三・九) (・シユ・いふ・とも・あり・こと・を・ぬ・)

○況(返) ヤ公(返) ・芝(返) (平) 一 扇(返) (平) に寵(返) (返) を席(返) ク・曉(返) (の) 一 星(返) を載(返) イ 而(返) 年(返) (返) を積(返) ミ・椒(返) (平) 一 室(返) に花(返) (返) を縮(返) フ・春(返) の 露(返) に霑(返) (ひ) 而(返) 月(返) (返) に映(返) す。(身延文粹・上一三・10) (・いはむや・シケイ・しく・いたたく・つむ・セウシツ・むすぶ・うるふ・エイ・)

○朕(返) か「之」加(返) (返) (ふ) ル所(返) ・自(返) (ら) 僉(返) 一 屬(返) に副(返) へり。(身延文粹・上一三・11) (・くはふ・センシヨク・かなふ・り・)

○方に今(返) ・一片風(返) 一 清(返) シ・奔(返) 一 競(返) (の) 「之」跡(返) (二) を拂(返) (二) フ と雖(返) (三) (も) ・萬(返) 一 機塵(返) 一 鬧(返) シ・恐(返) は謙(返) 一 讓(返) (の) 「之」懷(返) (二) に擁(返) (二) センコトヲ。(身延文粹・上一三・12) (・きよし・ホンケイ・はらふ・いそがはし・おそらくは・をもひ・キヨウ・す・む・こと・を・)

○朕(返) か心石(返) (訓) (返) に匪(返) ス・公何(返) ソ轉(返) (返) ス可(返) ケンヤ。(身延文粹・上一三・13) (・あらず・なにぞ・まるばす・べし・む・や・)

○地(返) 一 中(返) 「イ、地の中」(の) 「之」山(返) (二) (返) を重(返) (二) ネて以(返) て天(返) 下(返) (の) 「之」望(返) (上) を塞(返) (中) クこと莫(返) (下) カラマク耳(返) ミ(身延文粹・上一三・14) (・かさぬ・のぞみ・ふさぐ・なし・まく・のみ・)

○六條右大臣(返) の職(返) (返) を辭(返) スル表(返) (二) に答(返) (二) スル勅(返) (身延文粹・上一四・2) (・す・す・)

○勅(返) す 右大臣重(返) ネタル表(返) (返) を省(返) て懷(返) (返) フ所(返) (返) を具(返) シツ。(身延文粹・上一四・3) (・かさぬ・たり・かへりみる・おもふ・つぶさにす・つ・)

○於^ア「戯・止―足」の「之」慮^{おもんはむり}・勵^{ライ}（去）―卿^{キヤウ}（の）「之」

風（訓）高（返）（し）と雖（も）・謙―退（の）「之」詞・鬱―邑

（の）「之」煙（訓）散（返）シ難シ。（身延文粹・上一四・3）（

あ・おもんばかり・ライキヤウ・す・かたし・）

○惟^コレ公ハ・朝（平）の「之」宿（入）―齒^シナリ・肝（平）―膽^{ダン}を瀝^{シタ}テ

而年深シ。（身延文粹・一四・4）（これ・は・シユクシ・なり・

カンタン・したつ・ふかし・）

○國（の）「之」英（平）―髦^{ホウ}（平濁）ナリ・喉^{コウ}―舌^{ゼツ}を經^ヘテ「而」「イ

經^テ而」日久シ。（身延文粹・一四・5）（エイボウ・なり・コウ

ゼツ・ふ・て・ひさし・）

○夫^ツレ・勞^{ラウ}（去）（返）を惠^{メツ}ンテ必^ス（す）酬^{ムク}ユルは「者」聖―哲（の）

「之」彝^イ―範（なり）（身延文粹・一四・6）（それ・めぐむ・

むくゆ・イハン・）

○仁（返）（返）に當^ア（り）て讓^ズ（返）ラ不（る）は「者」・人臣（の）

「之」表―儀ナリ。（身延文粹・一四・6）（あたる・ゆづる・

なり・）

○朕（か）「之」此（の）舉^音・公何ソ辭^シ（返）スルコトヲ得^エン。

（身延文粹・一四・7）（なにぞ・ジ・す・こと・を・う・む・）

○縦ヒ其（の）事（二）を高（二）―尚^{シヤ}ストモ・誰か其（の）情（二）

を允^上（二）―容^{ヨウ}（平）セン哉^ヤ。（身延文粹・一四・7）（たとひ・

コウシヤ・す・とも・インヨウ・す・む・や・）

○彼（の）言^{コト}を暮^ム―年（二）に寄^ヨ（二）セ・勤^{ツトメ}を朝―霧^上に謝^中（中）

スルに至^下（下）（り）テハ・昔・呂―尚^去（去）―父^{人名}か「之」面^{ヲモテ}

ノ―波^ハ・涓^キ―水^水を別^チ（ち）而猶^テ（ほ）疊^タミ・園^平―司^{人名}徒^{人名}

か「之」鬢^{ハシ}の雪・商―山^山を出^テ（て）而既に寒^{サム}シ。（身延文粹・一四

・8）（こと・よす・つとめ・す・て・は・をもて・の・キスイ・

たたむ・さむし・）（原本「寄」、破損。）

○然モ・周―文漢―惠^{人名}・皆^な（な）嘉^ホ―謨^{平濁}（二）に資^ヨ（二）

ル者^{もの}ナリ「也」（身延文粹・上一四・10）（しかも・カボ・よる・

なり・）

○公^{イヨク}逾^ク者―成（の）「之」誠（二）（返）を扶^ニ（二）ケテ少^{シハラク}モ休^{キウ}スル

「之」思（二）有（二）（る）こと莫^ム（三）（か）レ（身延文粹・上一四

・11）（いよいよ・たすく・しばらくも・キウ・す・なし・）

○入道前太政大臣并て章奏等(二)を辭(三)スル表(上)に答(下)スル勅(身延文粹・上一四・14)(・ジ・す・す・)

○勅す 表―翰(去) 稠(平)―豊シテ雅―言(二)を合(平)(三)―咀(上)す。(身延文粹・上一五・2)(・へウカン・チウテフ・す・カンシヨ・)

○惟(平)レ公(音)・蘅(平)―蓀(平)芳(音)(平)を蓄(去)へ・瑤(平)鋭(上)美(音)(返)を擅(ホシイマ、ニ)ス。(身延文粹・上一五・2)(・これ・カウソ・ン・たくはふ・エウセン・ほしいままにす・)〔鋭〕、〔銑〕の誤写か。)

○寄(ヨ)セ象―岳(二)ヨリモ高(三)シ・既に杞(上)―梓(上)(の)〔之〕材(二)を養(三)フ。(身延文粹・上一五・2)(・よす・より・も・たかし・キシ・やしなふ・)

○地渭―陽(二)ヨリモ貴(三)シ・能(く)江―湖(の)〔之〕量(平)(二)を韜(三)メリ。(身延文粹・上一五・3)(・より・も・たとし・つつむ・り・)

○爰に・素―性(イサキヨウ) 潔(シ)而清―謙(二)を執(三)リ痾(平)―恙(ヤウ)侵(シ)而重―秩(二)を辭(三)す。(身延文粹・上一五・4)(・いさぎよ

うす・とる・アヤウ・をかす・)

○昔・漢の邴(上)―丞―相(人名)病(返)有リ・夏―侯―勝(平)(人名)帝(返)(返)に言シテ曰(く)・吉陰―徳有リ・疾以テ瘞(イ)可(シ)。

(身延文粹・上一五・5)(・あり・まうす・あり・いゆ・) ○厥の後何(返)(返)ト無シテ果(ハ)テ其(の)言(コト)の如シ。(身延文粹・上一五・6)(・なにと・なくす・はたす・こと・ごとし・)

○猗(ヨイ)乎(平)・公か〔之〕徳―行(去)・古―賢(ハ)に慙(ハ)ツルこと無シ。(身延文粹・上一五・7)(・よいかな・はづ・なし・)

○漢―家(の)〔之〕舊―風相(ひ)―傳(ツタ)へ・漳(平)―濱(平)(の)〔之〕宿―霧(イ)宿―霧(上濁)將に散(音)シケン(と)〔將(再讀)。(身延文粹・上一五・7)(・つたふ・す・けむ・)

○彼(の)應(平)―曜(去)獨(リ)〔於〕淮―陽(二)に臥(三)シ・許―由(人名)長ク穎―水(上)に遊(中)(ひ)シに至(下)(り)テハ・親(音)巳に戚(セキ)里に非(す)・心何ソ濟(去)―川に在(らむ)。

(身延文粹・上一五・8)(・ひとり・ふす・ながし・エイスイ・き・て・は・セキリ・なにぞ・)

○公其(の)社―稷(タメ)の爲・國―家(の)爲・猶(ほ)星―階(返)を履(フ

ンて彌(よ)風―化を施(ほ)セ。(身延文粹・上一五・10) (・た
め・ふむ・ほどこす・)

○然(モ)章―奏の公(返) (返)を令て宣行(二)セ「令」(再讀)ムル禁
―兵の公翼―衛(二)爲(二)ル・悉に以て停(ト)メ罷(ヤ)メテ乃(ナ)カ―心(奪)を奪、
不(身延文粹・上一五・11) (・しかれども・す・しむ・たり・
とどむ・やむ・なんぢ・むばふ・じ・)

○諸―公―卿の封―祿(二)減(二)セント「イ、減サント」請(三)フ
表(上)に答(下)スル勅(身延文粹・上一五・14) (・す・む・と・
をとす・む・と・こふ・す・)

○勅(す) 朕(身)眇―身を以(て) 謬(り)て元―首(爲)リ。(身延文粹・
上一六・1) (・べウシン・あやまる・グワンシユ・たり・)

○運(澆) (平濁)―世に属(音)シ・道(訓) 淳―源(源)を離(レ)タリ(身延文
粹・上一六・1) (・す・シユンゲン・はなる・たり・)

○近―曾(炎)―早(シ)テ「イ、炎(旱) (し)・」人―庶(憂)―勞(去)す。(身
延文粹・上一六・2) (・このごろ・す・て・)

○神―靈(を)崇(ヒ)而(功) (返) 無(く)・經(王)―王(イ、經)―王(を)轉(音)
シ而(驗) (返) アラ不。(身延文粹・上一六・2) (・たとふ・す・し

るし・あり・)

○是(を)―用(て)躬(節)―儉(二)を親(二)シ(心)感―通(二)を期(二)
す。(身延文粹・上一六・3) (・み・みづからんす・)

○乃(ち) 舊(章) (返) に稽(へ)て重(て)新(詔)を施(す) (身延文
粹・上一六・3) (・すなはち・かんがふ・かさねて・)

○衣(は)彌(よ) 異(綵) (二) 無(二) (か) ランコトヲ 慮(三) リ。
食(は)亦(た) 兼(珍)有(ル)コトヲ 嫌(フ)。(身延文粹・上一六・4)
(・なし・む・こと・を・おもんばかる・あり・こと・を・きらふ・)

○民(の) 爲(ス)ル所(以)ナリ「也」(身延文粹・上一六・5) (・た
めにす・なり・)

○而(を) 卿(等) 蒼(天) (の) 「之」 德(返) に厭(ク)コトヲ 稱(二)
(返) セ不(還)て紫(泥)を「於」流(謙) (二) に美(二) ス。(身延文粹・
上一六・5) (・しかるを・ケイ・ら・あく・こと・を・す・よみ
す・)

○内(は) 議(を)「於」股(肱) (平) (二) に合(二) セ(外) 是(彙)を「於」
朱(紫) (二) に引(二) ク。(身延文粹・上一六・6) (・ココウ・あ
はす・たぐひ・ひく・)

○至―情に任セ而封(を) (返)折(返)ガンコトヲ求メ・往―跡に違

(ひ)而祿(を) (返)減(返)センコトヲ陳す。(身延文粹・上一六

・7) (・まかす・へぐ・む・こと・を・もとむ・す・む・こと・を・)

○朕猶(ほ)怪フ「焉」。(身延文粹・上一六・7) (・あやしぶ・)

○夫レ・災(平)―害(去) (の)「之」興・必(す)應(去) (返)スル

所(返)有(り)。(身延文粹・上一六・8) (・それ・サイガイ・す・)

(「災」、上欄。)

○朕か「之」逮(返) (は)不(る)「イ、不逮ナル」・蓋(し) 自(フのつか)

(ら)之を招ケリ。(身延文粹・上一六・8) (・フタイ・なり・を

のづから・まねく・り・)

○朕獨(り)民(返)に對(ひ)而謝(二)す可(三)シ「矣」。(身延

文粹・上一六・9) (・むかふ・べし・)

○卿等何ソ己(返)を剋メ而同センヤ「乎」。(身延文粹・上一六

・9) (・なむぞ・をのれ・せむ・をなじうす・む・や・)

○況(ヤ)・大夫等・國―恩是ヲ―憑メリ・私(平)―儲(平)或は乏(トホ)

シ。(身延文粹・上一六・9) (・これ・を・たのむ・り・シチヨ・

とほし・)

○學―館(二)於(三)リ出(三) (て)タル者は風―月唯(た)家―資

爲リ。(身延文粹・上一六・10) (・より・たり・もの・たり・)

○孝―門(二)自(三) (り)移(三)ル者は水―菽(入)祿―養に非ス

トイフこと莫シ。(身延文粹・上一六・11) (・うつる・あらず・と・

いふ・なし・)

○來リ―請フ「之」旨・曾テ容(返)レ不(返)ル所ナリ。(身延文粹・

上一六・12) (・きたる・こふ・かつて・いる・ず・なり・)

○猗―歎(平)・公(返)を助クル「之」誠(二)を悅(三) (返)ハ不(返)

ルニハ非(す)・俗(返)を敦スル「之」志(二)を高(三) (返)セ不

ルニハ非(す)。(身延文粹・上一六・12) (・よし・かな・たすく・

よろこぶ・ず・に・は・あつうす・たかうす・ず・に・は・)

○然モ此の省(上)―撤(上)將(上)に「於」予―一人か「之」身(二)に

止(二)メンと「將」(再讀) (三)フ「也」(身延文粹・上一六・13)

(・しかれども・セイテツ・まさに・とどむ・む・をもふ・) (「撤」、

左傍に「檄」。

○中(去)務(平)の・伯―禽(平)魯(返)に封セラレ辟(入)―

疆キヤウ（平）（人名）侍―中タリ。（身延文粹・上一七・5）（・チウム・ホウ・す・らる・ヘキヤウ・たり・）

○咨爾アナンチ時平・名―父（の）「之」子訓・功―臣（の）「之」嫡チヤクナリ。（身延文粹・上一七・5）（・あ・なむぢ・チャク・なり・）

○此の良―辰返に及（ひ）て汝か元―服（二）を加（三）フ。（身延文粹・上一七・6）（・くはふ・）

○鳳去―毛平濁酷ハナタ似ニタリ・爵入―命去宜（去）ク殊（返）ス「宜」（再讀）（し）。（身延文粹・上一七・6）（・はなはだ・にる・たり・よろしく・ことにす・）

○前サキ（の）件ケンに依返ル可シ・主―者施―行（身延文粹・上一七・7）（・さき・くだん・よる・べし・）

○中―務ムの先―功コフ父臣の後―胤遺―種ナリ。（身延文粹・上一七・11）（・チウム・センコフ・なり・）（上欄、「父久臣イ本」）

○唯（た）當―時（の）「之」器―量（二）を悦（二）フノミに非（三）（す）・亦（た）曩―日（の）「之」附―託（二）に感（三）ず。（身延文粹・上一七・11）（・よるこぶのみ・ナウジツ・）

○宜（く）爵―命返を授ケテ用テ寵―榮（二）を異（二）ス「宜」

（再讀）（し）。（身延文粹・上一七・12）（・さづく・もて・ことにす・）

○前（の）―件に依ル可シ・主―者施―行（身延文粹・上一七・12）（・よる・べし・）

○重（かさ）テ奏―狀返を得テ具（ツ）に其（の）凶―類（シ）滋（シ）ク―蔓（ハ）（り）て良―民（二）を殺（二）―略スルコトヲ知（三）（らし）メ（よ）。（身延文粹・上一八・3）（・かさねて・つぶさに・しげし・はびこる・す・こと・を・しむ・）

○兵返を發（ツ）シテヨリ以―來（た）・成―效（去）有（二）ランコトヲ望（三）（む）。（身延文粹・上一八・3）（・をこす・て・より・セイカウ・あり・む・こと・を・）

○而を―今・官―軍敗（返）を致（音）シテ賊（徒氣）を作（ナ）ス。（身延文粹・上一八・4）（・やぶれ・いたす・なす・）

○兵返を用（ぬ）ル「之」道・豈（に）此（返）（の）如クナラン乎（身延文粹・上一八・5）（・もちゐる・ことし・なり・む・や・）

○今・上野下野等の國（二）返（二）に勅（二）シテ各（の）兵（訓）一千（二）を發（二）シ・亦（た）重（かさ）テ陸奥（二）返（二）に勅（二）シテ責（セ）ム

ルに緩ク救フコトヲ以^モテス。(身延文粹・上一八・5) (・す・をこす・かさねて・す・せむ・ゆるし・すくふ・こと・を・もてす・)

○宜ク三國の兵^返を合^アセ^テ一^ニ時に禽^ニ滅^スす「宜」(再讀^二シ)。(身延文粹・上一八・6) (・よろしく・あはす・べし・)

○凡^レそ^レ軍陣^の「之」法[・]必^ス注^記有り。(身延文粹・上一八・7) (・あり・)

○其^の錄^{スル}ス所^ニ返^察て爲^ニ成^敗を圖^ニル。(身延文粹・上一八・8) (・しるす・みる・ため・はかる・)

○今^上奏^ス所^ニの状[・]極^テ省^略ナリ。(身延文粹・上一八・8) (・かたち・きはめて・なり・)

○胡^城雲^隔リ魏^闕天遥^ナリ。(身延文粹・上一八・9) (・へだたる・はるかなり・)

○路^遠ク事^疑シ^指シ^問フ可^キに非^ス。(身延文粹・上一八・9) (・とほし・うたがはし・とふ・)

○必^ス須^ク事^巨細^と無^ク委^曲に記^録シテ知^リ見^ル可^カラ令^ム「須」(再讀^四シ)。(身延文粹・上一八

・10) (・なし・す・しる・みる・べし・しむ・)

○老^弱行^去返^返に在^リテ耕^種務^返を廢^ム。(身延文粹・上一八・11) (・つとめ・やむ・)

○早^ク鏑^返を染^ムル「之」勞^返を休^メテ當^ニ弓^囊スル「之」化^崇フ「當」(再讀^三シ)。(身延文粹・上一八・11) (・やいば・そむ・やむ・ふくろにす・たとふ・)

○勅^到ハ奉^行「イ奉^リ行^ヘ」(身延文粹・上一八・12) (・チヨク^{タウ}・は・うけたまはる・をこなふ・) (行末、「宮式令説」)。

○安^ケレトモ危^返カランことを忘^レ不^況ヤ處^視方^ナに久^シ。(身延文粹・上一九・1) (・やすし・ども・あやうし・む・)

○治^レトモ亂^返レンことを忘^レ不^況ヤ風^聞已^ナに成^レリ。(身延文粹・上一九・1) (・をさまる・り・ども・みだる・む・わする・なる・り・)

○必^ス須^ク事^巨細^と無^ク委^曲に記^録シテ知^リ見^ル可^カラ令^ム「須」(再讀^四シ)。(身延文粹・上一八

・10) (・なし・す・しる・みる・べし・しむ・)

○老^弱行^去返^返に在^リテ耕^種務^返を廢^ム。(身延文粹・上一八・11) (・つとめ・やむ・)

○早^ク鏑^返を染^ムル「之」勞^返を休^メテ當^ニ弓^囊スル「之」化^崇フ「當」(再讀^三シ)。(身延文粹・上一八・11) (・やいば・そむ・やむ・ふくろにす・たとふ・)

○勅^到ハ奉^行「イ奉^リ行^ヘ」(身延文粹・上一八・12) (・チヨク^{タウ}・は・うけたまはる・をこなふ・) (行末、「宮式令説」)。

○者ハ・昔・李―將―軍カ「之」邊（音返）を守ル・胡人敢て南
に―下（二）ラ不（二）。（身延文粹・上一九・2）（・ていれば・ま
もる・コひと・くだる・）

○楊―大―尉カ「之」鎮（去返）に在ル・敵―國亦（た）以て子
來す「イ、子ノコトクニ來ル」。（身延文粹・上一九・2）（・ヤウタ
イキ・あり・こ・の・ことし・に・きたる・）

○且ハ兵―機（二）を警（二）メ・且（は）耕―織（二）を勤（二）
メて生―民（返）を令て業（返）を樂ヒ・死―生戰（二）を駐（二）メ
「令」（再讀）（三）メヨ（身延文粹・上一九・3）（・かつは・いまし
む・つとむ・たのしむ・たたかひ・とどむ・しむ・）

○陸（去）奥「イ、陸奥」勅符（身延文粹・上一九・6）（・リクア
ウ・みちをく・）（右傍に「世間流布本無此符」）

○蝦（平）―夷（の）「之」起レルこと表（返）を見て之（返）を具シ
ツ（身延文粹・上一九・7）（・カイ・をこる・り・つぶさにす・
つ・）

○須（子）ク大に諸―國（の）「之」兵（返）を興シて早（に）以て討
―滅（二）す「須」（再讀）（二）（し）（身延文粹・上一九・7）（・す
べからく・をこす・）

○然―而（も）中―國を費シ而夷―狄に資（音）スル・代已（以て）
之（返）を刺ル（身延文粹・上一九・8）（・つゐやす・し・す・よ・
そしる・）

○倉―廩（二）を耗（二）シテ「而」「イ、耗（し）而」遐（平）―荒（二）
を批（二）ツ「イ、批ツ」後（の）者亦（た）未（た）可（返）と爲（返）
「未」（再讀）。（身延文粹・上一九・8）（・ソウリン・つゐやす・
て・うつ・うつ・ひと・す・じ・）（「耗」、右傍に「へいシテ」）

○加（シカノミナラ）―之ス・蠻（平濁）―貂（入）「之」情・法―禁（の）「之」
用（二）（ある）所（二）に非（す）。（身延文粹・上一九・9）（・し
かのみならず・バンハク・）

○狼―戾（レイ）ノ「之」瞻（平）・宣（く）彝（平）―綸（平）「之」施（返）
す所ナランヤ（身延文粹・上一九・10）（・ロウレイ・の・にぎは
ひ・イリン・なり・む・や・）

○宜(く)威(返)を以て其(の)外(二)を嚴(三)制シ仁(義(返)を以て其(の)内(上)を懷(中)ク「宜」(再讀)下(し)(身延文粹・上二九・11)(・す・なつく・)

○應(に)停(止)す「應」(再讀)勅(旨開)田并て諸(院諸)宮及(ひ)五位以上百姓の田地舍(宅)を買(二)イ(取り)閑(地荒)田(二)を占(二)メ(請(ふ)事(身延文粹・上二十・2)(・カイデン・あはせて・シヨクウ・かふ・とる・カ
ンチ・しむ・)

○格(入)(身延文粹・上二十・3)(・キヤク・)

○右案(内(二)を)檢(二)フルに(項の)年(勅)旨開(田)遍ク諸國に在(り)。(身延文粹・上二十・4)(・かんがふ・しきり・あまねく・)

○空(閑)荒(廢)の(「之」)地(二)を占(三)ムと雖(三)も(是(れ)黎(元産)業(の)「之」)便(二)を奪(三)へリ「也」(身延文粹・上二十・5)(・クウゲン・しむ・レイゲン・たより・むばふ・り・)「黎」、左傍に「民也」。

○加(之)新(立)の庄(家)多(苛)法(二)を施(三)す。(身

延文粹・上二十一・5)(・しかのみならず・シヤウケ・おほく・カ
ホフ・)

○課(責尤)繁(威)脅(入)輕(耐)エ難シ。(身延文粹・上二
十・6)(・クワセキ・もとも・しげし・イケフ・たふ・かたし・)

○且(諸)國(奸)濫(の)百姓(の)課(役)を遁(二)レン(か爲(三)に(動)は京(師)返)に赴(イ)て好(豪)家に「イ、豪(家)ノ」
屬(す)。(身延文粹・上二十・7)(・かつかつ・カンラン・カヤ
ク・のがる・む・ややもすれば・をもぶく・このむ・ガウケ・カウ
カ・の・)「濫」、左傍に「監欺」。

○或(は)田(地)を以(て)詐(寄)進(二)と稱(三)シ(或(は)舍(宅)を以て巧(ミ)に賣(リ)與(二)と號(三)す)。(身延文粹・
上二十・8)(・いつはりす・す・たくみに・うる・あたふ・)

○遂(に)使(返)を請(牒)取(返)て封(返)を加(勝)た
を立ツ。(身延文粹・上二十一・9)(・こふ・フ・くわふ・パウ・た
つ・)

○國(吏)矯(饒)の(「之」)計(二)を知(三)と雖(三)も(而も
權(貴)の)「之」勢(二)に憚(三)て口(返)を鉗(舌)返

○返を巻マいて敢て禁シ制シ（二）セ不シ（三）。（身延文粹・上二十一・9）（ケウシヨク・ケクキ・いきをひ・はばかり・つぐむ・まく・す・）

○茲（返）に因（返）（り）て出（返）舉（返）（の）「之」日・事（訓）を權（ケ）門（二）
○返に託（三）ケて正（平）税（二）を請（三）ケ不（三）。（身延文粹・上二十・10）（・ケンモン・つく・シヤウザイ・うく・）

○收（返）納（返）（の）「之」時（コ）穀（コ）を私（私）宅（二）に蓄（タ）へて官（官）倉（二）に運（三）ハ不（三）（身延文粹・上二十一・11）（・コク・たくはふ・はこぶ・）

○賦（返）税（返）の難（難）濟（レ）・斯（返）に由（返）ラ不（返）トイフこと莫（レ）シ。（身延文粹・上二十一・12）（・フゼイ・これ・よる・ず・と・いふ・なし・）

○加（返）之（返）（す）・賂（返）遺（返）（の）「之」費（返）ス所（所）・田（田）地（地）遂（二）に豪（豪）家（の）「之」庄（二）と爲（三）レ（身延文粹・上二十一・12）（・ワイ中・つゐやす・つひに・なる・）

○奸（返）搆（返）（の）「之」損（返）スル所（所）・民（民）煙（二）長ク農（農）桑（の）「之」地（二）を失（三）フ。（身延文粹・上二十一・13）（・カンコウ・す・ビエン・ながし・うしなふ・）

○終（返）に「於」身（返）を容（二）ル、に處（二）無（返）シ・還（て）「於」他（他）境（二）に流（三）冗（上）す。（身延文粹・上二十一・14）（・つゐに・いる・なし・リウジヨウ・）

○去（返）ンシ天（天）平（平）神（神）護（護）「イ、神」護（護）元年（元）（の）格（格）を案（三）スルに云ク天下の諸（諸）人競（競）（ひて）墾（墾）田（田）「イ、墾田」を爲（三）。（身延文粹・上二十一・1）（・いんじ・テンビヤウ・キヤク・す・いはく・きそふ・メウテン・はるた・す・）

○勢（返）力（返）（の）「之」家は百姓を驅（驅）リ使（使）ヒ貧（貧）窮（窮）（の）「之」民は自（自）（ら）存（存）（するに）暇無（無）シ。（身延文粹・上二十一・2）（・かる・つかふ・なし・）

○今（返）自（返）（り）て以（以）後（後）一切に禁（禁）断（断）セ。（身延文粹・上二十一・3）（・す・）（原本「自」、破損。）

○寶龜三年の格に云（云）諸（諸）人の墾（墾）田は任（任）開（開）墾（墾）（二）セ令（令）（三）メモヨ。（身延文粹・上二十一・3）（・ままに・す・しむ・）

○但（返）（し）・勢（返）を假（假）（り）て百姓を苦（苦）ハシメは「者」・宜（宜）（ク）嚴（嚴）ク禁（禁）制（制）す「宜」再（再）護（護）（し）。（身延文粹・上二十一・）

・4) (・いきをひ・かる・くるしぶ・しむ・いつくしく・)

○弘仁三年の格に云(く)・諸(國)司・朝(憲)に(率)ハ不(身延文粹・上二一・4) (・したがふ・)

○専(私)利ノ利「私(利)」を求(メ)百端(奸)欺(して)一(も)徴(し)革(ル)こと無(し)。(身延文粹・上二一・5) (・もはら・の・リ・もとむ・あらたまる・) (原本「百端(奸)欺」、「一」、破損。)

○或(は)他(名) | 人(ノ)名(ニ) (返)を假(カ) (リ)て多(ク)墾(田) (ニ)を買(ヒ)受(ク) (返) (或)は言(王)臣(上) (返)に託(下) (ケ)て競(ヒ) (平) | 地(ニ)を占(シ)ム。(身延文粹・上二一・7) (・かる・おほく・メウデン・かふ・こと・つく・きそふ・ユチ・しむ・)

○民(の)「之」業(返)を失(フ)コト・此(返)に由(返)ラ不(返)トイフこと莫(シ)。(身延文粹・上二一・8) (・うしなふ・こと・よる・ず・と・いふ・なし・)

○宜(ク)重(テ)下(知)シテ 嚴(ク)禁(制) (ニ)を加(フ)「宜」(再)讀(三) (し)。(身延文粹・上二一・8) (・よろしく・かさねて・す・いつくしく・くはふ・)

○天長元年の格に云(ふ)・常(の)荒(田) (ニ)有(ニ)ラハ・百

姓(耕) | 作(シ)テ一年(の)「イ、身(ノ)」「之」間(は)其(の)耕(食) (ニ)を聽(ス)。(身延文粹・上二一・9) (・クワウデン・あり・す・て・シン・ゆるす・) (「年」、左傍に「身(シ)ン イ本」あり。)

○此(返) (返)に因(リ)て勢(家)耕(作) (ニ)スルコトヲ得(不) (三)。(身延文粹・上二一・10) (・す・こと・を・じ・)

○者(ハ)件(等)の格(ニ)を案(ス)ルニ閑(地) (ニ)を請(ケ)開(キ)荒(田) (ニ)を耕(ニ) | 食(ス)ルコト・只(た)百(姓) (ニ)の爲(に)・獨(リ)其(の)文(を)立(テ)タリ。(身延文粹・上二一・10) (・ていれば・す・に・うく・ひらく・す・こと・ひとり・たつ・たり・)

○「于」高(貴) (ニ)至(ニ) (リ)テハ・嚴(制)重(疊)セリ。(身延文粹・上二一・12) (・て・は・ば・す・り・)

○而(を)諸(院)諸(宮)朱(紫) (の)「之」家(憲) | 法(返)に憚(ラ)不(し) (返) (ヒ) (ケ)テ占(メ)請(ク)ルコトヲ爲(ス)。(身延文粹・上二一・12) (・はばかる・きそふ・しむ・うく・こと・を・) (原本「朱紫之家不」、破損。)

○國―郡の官―司判許(の)「之」日專(ら)墾(ら)發(ら)クコ
トヲ催(二)に似(三)返タリト雖(も)其(の)輸―租
(を)勞(音)シ而猶(ほ)土民(の)「之」力―役(二)を盡
(し)・國―内「イ、國―内」(の)「之」農―業(二)を妨(三)
ク。(身延文粹・上二一・13) (・はる・ひらく・こと・を・た
り・と・ユソ・す・さまざま) (原本「司判許之日」「租而猶盡
土民」、破損。)

○左大臣宣(して)勅(を)奉(す)・正(去)―朔(去)遞(去)に―變(去)シテ
驪―輸(去)推(去)シ―遷(去)ル。(身延文粹・上二二・1) (・セン・たがひ
に・す・リカン・をす・うつる) (原本「宣奉」、破損。)

○八―埴(上) (の)「之」地限(返)有(り)・百王(の)「之」運(音)
窮(返)無(シ)。(身延文粹・上二二・2) (・ハチエン・あり・な
し) (・)

○若(し)限(返)有(ル)「之」壤(上濁) (二)返(二)を削(三) (り)て
常に窮(返)無(キ)「之」運(音)に奉(三)セ(は)・則(ち)後―
代の百姓・得(而)耕(可) (二)ケン(乎)。(身延文粹・上二二・3)
(・あり・ジヤウ・けづる・きはまり・なし・ホウ・す・う・た

がへす・べし・む・や) (・)

○宜(ク)當(一)代(以)後(の)勅(旨)開(田)皆(悉)に停(止)シテ民(返)
(返)を令(て)貞(作) (二)セ「令」(再讀) (二)メヨ。(身延文粹・上二
二・5) (・よろしく・す・す・しむ) (・)

○其(ノ)寺(社)の百姓(の)田(地)は各(の)公(驗) (返)に任(せて)本(一)
主(二)に還(二)シ―與(へ)ヨ(身延文粹・上二二・6) (・その・
まかす・かへす・あたふ) (・)

○且(タ)夫(レ)・百姓(田)地(舍)宅(返)を以(て)權(貴) (二)に賣(ウ)
(二)リ―寄(セ)ン者(は)蔭(贖) (入濁) (二)論(二)返(二)セ不(土)浪
(二)辨(二)返(へ)不(杖) (音)六十(二)決(入濁) (二)セム。(身
延文粹・上二二・6) (・また・それ・ゴンクキ・うる・よす・
む・もの・ランゾク・す・わきまふ・クエツ・す・む) (・)

○若(シ)符(の)旨(返)に乖(キ) (違) (ひ)て囑(返) (返)を受(け)て買
(ひ)―取(り)・并(て)閑(地)荒(田) (二)を請(二) (け)―占(ム)ル「之」

家(上)有(下)ラは國(訓)須(ク)具(に)料(主)并(て)暑(平濁)―牒(の)
「之」人(訓)・使(者) (の)「之」名(二)返(二)を録(二)シテ早(速)
に言(上)上(す)「須」(再讀) (下)シ。(身延文粹・上二二・8) (・

もし・そむく・たがふ・ゾク・とる・あはせて・しむ・あり・すべからく・つぶさに・レウシユ・あはせて・ジヨデフ・しるす・べし・

○論スルに違^キ勅^入返^返を以て曾テ寛^{カツ}宥^{クワン}宥^{イウ}セ不^シ。 (身

延文粹・上二二・10) (・す・キチヨク・かつて・クワンイウ・す・じ・)

○判^シ許^シ(の)「之」吏は見^見任^任(二)を解^カ却^却(入^入濁^濁セ^セン(身延文粹・上二二・11) (・ハンキヨ・カイキヤク・す・む・)

○但シ・從^{モト}來^ト相^ヨ(ひ)傳^シへて庄^{シヤウ}家^ケ返^返と爲^シて券^{ケン}契^ケ(去

濁^濁分^分明^明ニシテ國^國務^務(二)に妨^妨(二)返^返ケ無^無(か)ランハ・此の限^限に在^在(ら)不^不仍^仍て須^須(く)官^官符^符の到^到(り)て後^後・百か日

内に弁^弁(平^平濁^濁)行^行(平^平濁^濁)シテ状^{カタチ}返^返(返^返)を具^{ツク}シテ言^{コト}上^上(二)す

「須^須」(二)再^再讀^讀(し) (身延文粹・上二二・11) (・ただし・もとよ

り・つたふ・シヤウケ・す・クエンゲイ・に・す・て・さまざま・なし・む・は・かぎり・す・かたち・つぶさにす・)

○應^應(に)文^文章^章の生^生(音^音)并^{アヘ}得^得業^業の生^生(二)を補^フ(三)スル舊

例^例(上^上)に復^{フク}(中^中)ス「應^應」(再^再讀^讀)下^下(き)事^事(身延文粹・上二三

・3) (・あはせて・フ・す・フク・す・) (行末、「格」)

○右式^式部^部省^省の解^ケ(二)を^を得^ウ(二)ルに僞^{イハ}ク・大^大學^學寮^寮の解^解に僞^{イハ}ク・文章博士正五位下都の宿^{ミヤコ}禰^禰腹^ハ赤^カ牒^{テフ}(に)僞^{イハ}ク・天^ヒ平^{ヘイ}

二年三月廿七日の格に僞^{イハ}ク・文章の生廿人・雜^雑任^任及^及白^白丁^丁(の)

聰^{チウ}慧^ヒ(二)ナランを簡^{ケン}(二)ヒ取^トレ(身延文粹・上二三・4) (・

ゲ・う・いはく・いはく・みやこ・はらか・デフ・いはく・テンビヤウ・いはく・および・サウエ・なり・む・えらぶ・とる・)

○年^年(の)多^多少^少(二)と限^限(二)ル須^ヘ不^不。 (身延文粹・上二三

・7) (かぎる・べし・)

○者^{テイ}而^而を省^{シヤウ}の去^イシ弘仁十一年十二月八日(の)符に僞^{イハ}ク・太

政官の去^去(し)十一月十五日(の)符に僞^{イハ}ク・唐^唐式を案スルに・

照^照(去)文^文(平)崇^崇(平)文^文兩^兩館^館の學^學生^生には三^三品^品已^已上^上の子

孫^孫を取^トレ凡^凡流^流(平)を^を選^エハ不^不レトイヘリ。(身延文粹・上二三

・7) (・ていり・シヤウ・いんじ・いはく・いはく・す・とる・ハンリウ・えらぶ・ず・と・いふ・り・)

○今^チ須^須ク文章の生^生(上)には「者^者」良^良家の子^子弟^弟(返)を取^取(り)

て寮^寮・詩^詩若^若は賦^賦(二)返^返に試^シ(二)ミテ之^之(返)を補^フ(上)ス「須^須」(再

讀^讀)下^下シ。(身延文粹・上二三・10) (・すべからく・もし・こ

ろみる・フ・す・べし・)

○生(上)の中に稍、進マン者(返)を選ンて省(上)・更に覆一試(平)

濁(し)て号シて俊一士と爲・俊一士の翹(上濁)一楚(上)ノ者(返)を

取(り)て秀一才の生(二)と爲(三)。(身延文粹・上二三・11)・

シヤウ・うち・やや・すすむ・む・もの・えらぶ・シヤウ・フクシ・

ガウ・す・ギヨウソノ・もの・シヤウ・す・)

○者ハ・今良一家と謂フ。(身延文粹・上二三・13)・(ていれば・

いふ・)

○偏(訓)に符の文(二)に據(三)は・三位已上を謂フに似タリ(身

延文粹・上二三・13)・(いふ・たり・)

○縦ヒ果て符の文の如セハ・學一道に妨ケ有ラン。(身延文粹・

上二三・14)・(たとひ・はたして・ごとくす・ば・さまざま・あ

り・む・)

○何ハ「者」・大一學は才(返)を尚フル「之」處・賢(返)を養フ

「之」地「也」(身延文粹・上二三・14)・(いかにとならば・たと

ぶ・やしなぶ・)

○天下(の)「之」俊(志)咸(コト)に來(り)・海内(の)「之」英(平)

竝(な)に萃(アツ)ル。(身延文粹・上二四・1)・(ことごとくに・エイ・

ならびに・あつまる・)

○游(入色)一夏(入色)か「之」徒(上)・元ト卿一相(の)「之」子(訓)

(二)に非(三)す。(身延文粹・上二四・2)・(ともがら・もと・)

○楊(入色)一馬(入色)か「之」輩(上)・寒一素(の)「之」門自(二)り

出(三)てタリ。(身延文粹・上二四・2)・(ともがら・たり・)

○高一才未(かならず)必(シヨク)モ貴種(二)ナラ「未」(再讀)。(身延文粹・上二

四・3)・(いまだ・かならずしも・クキシヨウ・なり・ず・)

○々(貴)々(種)未(た)必(かならず)モ高一才ナラ「未」(再讀)。(身延

文粹・上二四・3)・(かならずしも・なり・ず・)

○且(マ)タ夫(フ)「イ、且一夫」・王一者(の)「之」人(返)を用(ぬ)ルこ

と・唯(た)才(音)是を貴フ(身延文粹・上二四・4)・(また・

それ・もちある・たとぶ・)

○朝(チ)ニハ斯(シ)一養爲(タ)レトモ・夕(ヨ)ニハ公一卿に登ル。(身延文粹・

上二四・4)・(には・シヤウ・たり・ども・よは・には・の

ぼる・)(本文「ハニハ」は疑問)・)

○而(イ)を一況(ハ)ン(や)・區(平)一々(區)生一徒(ト)・何ソ門一資(二)に

拘カハニラン。(身延文粹・上二四・5) (・いはむや・クク・セイト・なにぞ・かかはる・む・)

○竊ヒソカにハ恐おそハ・悠イウ悠タル後進ハク・此返に返因ヨ(り)て解カイ體センコトヲ。(身延文粹・上二四・6) (・ひそかに・おそらくは・イウイウたり・よる・カイタイ・す・む・こと・を・)

○又(た)中返就クに文章の生(の)中ウに俊士五人・秀才二人ニを置ニク。(身延文粹・上二四・6) (・シヤウ・うち・おく・)

○良一家に非スと雖モ・之を俊一士ニに補フスルコトヲ聽ユルス。(身延文粹・上二四・8) (・フ・す・こと・を・ゆるす・) (・と) 点、位置が低い。)

○者テイハ・良一家の「之」子訓・還下一列に居リ號返を立ツルこと異返ナリと雖モ・課クワ試シスレ同シ。(身延文粹・上二四・8) (・ていれれば・をり・たつ・ことなり・クワシ・これ・おなじ・)

○徒イタツラに節目増マシテ政途に益エキ無ニシ。(身延文粹・上二四・9) (・いたづらなり・ます・エキ・なし・)

○又(た)令リヤウに依返ル・秀一才進士の二ニ科クワ有ニリ。

(身延文粹・上二四・10) (・リヤウ・よる・ニクワ・あり・)

○課クワ試シノ「之」法法・難易同返(し)カラ不。(身延文粹・上二四・10) (・クワシ・の・おなじ・)

○所コノ以ユヘに元モト文章得業ゴフノ生ニを置ニケリ。(身延文粹・上二四・11) (・このゆへに・もと・トクゴフ・の・をく・り・)

○才一學の「之」淺深に隨ニ(ひ)て二クワ科の「之」貢コウ舉ニに擬キセリ(身延文粹・上二四・12) (・ニクワ・コウキヨ・ギ・す・り・)

○今専ラ・秀才の生トと曰ニフ(身延文粹・上二四・12) (・もはら・いふ・)

○恐おそハ應オウ科平ノ「イ」科に應スル者モノ稀ナラン「矣」(身延文粹・上二四・13) (・おそらくは・の・もの・まれなり・む・)

○望マシヤウ請セラクハ・俊一士をは永ク停廢に從ヘ・秀才の生は舊フク號に復セン。(身延文粹・上二四・13) (・マウシヤウ・す・らく・は・ながく・テイバイ・したがふ・フク・す・む・)

○文章の生を選エハンコトハ・天平格ヒヤウキヤクに依ニラン。(身延

文粹・上二四・14) (・えらぶ・む・こと・は・テンビヤウ・キヤク・よる・む・)

○請フに依レ(身延文粹・上二五・3) (・こふ・よる・)

(以下続)

○謹(み)て處一分を請フ。(身延文粹・上二四・14) (・こふ・)

○者ハ・寮・解|狀(返)に依(り)て申(し)|送ル「イ、申送す」。

〔付記〕

(身延文粹・上二五・1) (・ていれれば・レウ・ゲジヤウ・をくる・)

本資料集の凡例は、『広島大学日本語史研究論集』創刊号に掲

○者ハ省・解|狀(返)に依(り)て官|裁を請フ(身延文粹・上二

載したものを)参照頂きたい。

五・1) (・ていれれば・ゲジヤウ・こふ・)

本稿(二)は、広島大学・大学院文学研究科平成二十七年度開

○者ハ・正三位行中納言兼(音)左|近|衛大將春|宮大夫良|

講の博士課程前期対象の授業における成果の一部である。

峯ノ朝臣安|世・宣(す)・奉|勅。(身延文粹・上二五・2) (・

本稿(二)に続くデータ集は順次連載の予定である。

ていれれば・トウキウ・ダイブ・よしみね・の・やすよ・セン・)